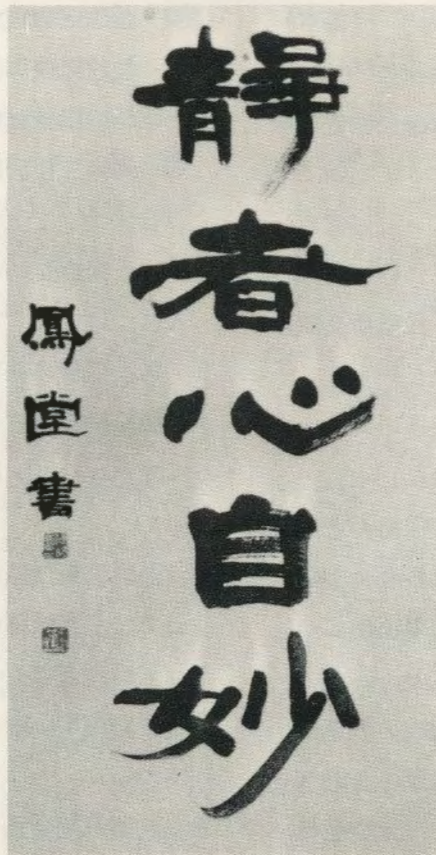


光市医師会報

昭和55年 5月発行

No. 93



隸書

伊藤慶二先生

光市医師会

医師会月間行事

◎定例理事会

5月13日(火) 午後 7・30

島田市 太閤

○報告事項

1. 学校保健担当理事協議会報告
(福本)
2. 広報担当理事協議会報告(伊藤)
3. 救急医療担当理事協議会報告、殊
に救急医療情報システムについて
(富恵)
4. 定時総会の諸費用について(竹中)
5. 互助会支部長会議、代議員会議に
ついての報告(大野会長)
6. 委任と委任状及表決権の民法上の
解釈について(大野会長)
7. 周南三市医師会と健保組合との協
議会開催について(大野会長、松村)
8. 中四国連合総会の開催出席につ
いて(大野会長)
9. 光市医師会年誌の編成の展望につ
いて調査、計画一年内位の予定
(大野会長)
10. 諸検査物集配の状況(福本副会長)

○協議事項

呼吸器疾患調査に伴う諸関連事項
岡山大学出張等諸経費について

◎定例月例会

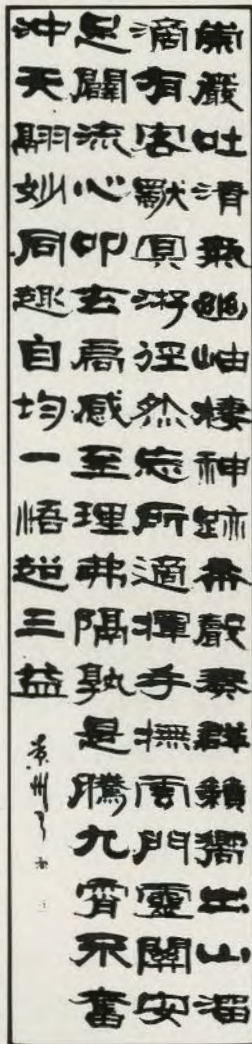
議題

1. 各会議の内容についての報告
 - (1) 学校保健担当理事協議会
 - (2) 広報担当理事協議会(5月8日)
 - (3) 庶務担当理事協議会(5月15日)
 - (4) 救急医療担当理事協議会(5月8日)
救急医療体制の情報システム化と未
端器の設置医療機関について
 - (5) 周南三市医師会と健保組合との協議
会について(5月21日)
2. 老人医療受給者証のコンピューター導
入について
3. 労働保健事務組合の事務処理について
4. 臨床検査物の集配の現況について
5. ツベルクリン反応検査の接種部位につ
いて
6. 患者調査(厚生省)受諸医療機関につ
いて 光精神病院に依頼
7. 互助会支部長会議、代議員会(4月2
9日)郡市医師会長会議(5月22日)
について
8. 医師連盟会議 丸茂重貞氏後援活動に
ついて(5月22日)
9. 委任、委任状表決権(授票権)につ
いて

My Hobby

隷書

伊藤 慶二



原田泰陽先生

書は画よりも端的であつて、造形芸術の中でいちばん最短距離の勝負をすと思います。白と黒、筆と紙と硯しか使わないにも拘らず、書いた人の顔貌、体つき、哲学、生活と云ったものが、ひとりひとり違っているように、書も千差万別なのは面白い。しかし、上には上があるもので、品格があるもの、胸のすく思いのするもの、力強さに感動するもの芸術性の高いもの実に奥行き深いものです。

字は名前だけ書ければよいと言った項羽をいいことにし、私は真面目に筆を持ったことがなかったので、その上、生れつきの有名な悪筆であり

ますので毛筆等一切触らないことにしていました。たまたま三年前誘われるままに水墨画を習い始めて、やっと一枚作品が出来上つた時に、自分の雅号を書き込む段階で参りました。折角苦心して描いた絵をだいなしにしないかと手がふるえて書けません。やはりついでに習字も習ってみようかという心理状態になったばかりに、2年余り師匠について隷書を習うことになってしまいました。しかし残念ながらいまだに上手にならないので、絵の落款は署名なしで印のみ押して逃げています。

書を習うと云っても、私が頭をつっこんでいるのは、楷書の更に古い時代の文字なのですが、隷書だけで楷行草はノータッチです。なぜ隷書を選んだかという理由はたった一つ、上手か下手が判りにくいというだけが理由です。書き方から云えば二三のきまりがあります。例えば、一画一画区切って書くことや、横に細長いこと、右上りになってはいけないこと等々、しかし楷書と違って可成り自由に好きな書き方が出来ることは一番の長所で、その変化は人々の感覚や嗜好によって書風はいくらでも開けると思います。こんなわけで、隷書には他の書体と違う面白さがあるので、また今日の書家にとっては隷書は決して昔の隷書ではなくして、今日の新しい表現様式として充分であります。だから現在行なわれている以外に、まだまだ隷書による新しい表現はうまれるのではないかと思います。

表紙の書は、5月中旬光市民ホールで行

なわれた書展に出品した作品ですが、立派な作品の並んだ中に一つだけ大変見劣りして、目を伏せて通った恥かしい思いをした作品です。これ以上人目にさらしたくないのですが、今月は表紙がなくて、仕方なくこれで我慢していただきます。余りにまずいので、隷書の見本にもなりませんから、兄弟子と云っては余りに格が違うので失礼になるかも判りませんが、今では書道界で大活躍の新南陽市の原田泰陽先生（景州）の書を写真で載せてみます。但し、可成り以前作品なので先生に掲載のお許しを願った折に溢られたのですが、私の手元には適当なものがないので無理云って掲載させて貰いました。写真の実物は1尺7寸と8尺位あると思います。非常に迫力があり端正な素晴らしい書をかかれます。

詩をつくり、絵をかき、字がかけたら素晴らしいと思う訳ですが、隷書で書くとすると漢詩しかかけないのでして、平仄とかなんとか大変難かしいきまりと用語やボキヤブラリー等 学も素養もないものにはお手上げです。

下手なの判っていないながら、今更楷書や行書を書いても先が見えていますし、今まで月謝も払ったことですし、破門にもなっていませんので、今しばらく水墨画と隷書を続けてみようと思っています。

「格に入つて格に出でよ」と言う立派な格言がありますが、なかなかそんな訳には参りません。凡俗に言う言葉ではありません。蟹のような字を書く先生の弟子は、蟹

のような字をかき、柳のような字をかく先生の弟子は柳のような字をかくのが普通です。

書家が書を書くのと人間が書を書くのと二通りにわかれるのは、ここから先が違うのでしよう。先生を頼りにして教わると云うことは努力しないで得をする訳でして、丁度家畜のようなものです。食物を支えられて満足しています。野獣は自分で入用な食物を自分でとつてきます。これは求道心の問題で、求道の心が強ければ支えられるものだけに満足しないで、奪ってくるでしょう。

とは云え、書家ではないのですから、他に遠慮することもなく、分相応に自分の書きたいように書ければ、これ以上言うことも望むこともないのですが……。

あ と が き

なんとか続けてきた光市医師会報も周囲の事情の変化から、再検討されなければならぬと思います。理事会並びに編集委員会に於いて纏めていきたいと考えております。

会員の皆様より卒直な御意見をいただけますようお願い申し上げます。

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	大野宗二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社